

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 9 日現在

機関番号：12601

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2016

課題番号：26671005

研究課題名(和文)「日本の現場発看護学」の構築を目指した事例研究方法の開発

研究課題名(英文) Developing a research method for case study: Toward a nursing science based on clinical practice in Japan

研究代表者

山本 則子 (Yamamoto-Mitani, Noriko)

東京大学・大学院医学系研究科(医学部)・教授

研究者番号：90280924

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：優れた看護実践事例から、他の看護師が共有し易い形で表現すること、看護学の学問的体系化のために蓄積可能な形にすることを目指して、事例研究方法を開発している。看護師自身の実践経験を研究者グループが現象学的な間主観性のもとで共に意識化・言語化し、グラウンデッド・セオリーの手法を用いた概念化を援用する方法モデルを開発した。さらに、このような事例研究の方法に関するワークショップの実施を試み、模擬事例を用いて実践の意識化、言語化、概念化をグループワークする4回シリーズのワークショップを考案した。実践を意識化・言語化するためのワークシートと概念化を促進する表のフォーマットを開発した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to develop a research method of case study in order to develop nursing clinical knowledge in the way that is useful for other nurses to share the knowledge and also that is possible to accumulate knowledge in order to develop the discipline of nursing sciences. It allows becoming aware and verbalizing nursing practice under the inter-subjectivity among the research group, and conceptualizing using the grounded theory technique. We also attempted several workshops to share the method with clinical nurses, and developed a four series program that makes possible for them to learn becoming aware, verbalizing, and conceptualizing. We also developed a worksheet for becoming aware and verbalizing, and a table to promote conceptualizing.

研究分野：高齢者看護

キーワード：現象学 看護学研究 実践知 研究方法

1. 研究開始当初の背景

日本の看護実践に即した看護学の構築が必要である。

2. 研究の目的

看護の実践知を統合可能な形でまとめ、新たな看護学の体系を構築するための新たな事例研究の方法をプロトコル化する

3. 研究の方法

看護実践者と協力して、研究代表者と分担者が各自分担して複数の事例研究を行い、その内容をリフレクションすることから事例研究の方法をプロトコル化した。合わせて、現象学を中心に文献学習および識者を招いてのセミナーを実施して、事例研究方法開発に役立てた。

4. 研究成果

看護実践の事例研究にとりくみつつ、方法論の開発と実践者向けワークショップ方法の開発を行った。計12件の事例研究にとりくみ、事例研究方法に関するセミナーおよびワークショップを、看護系学会、都道府県看護協会、主任研究者らが主催するLong-term care quality 研究会等において開催した。現象学を中心とした読書会、哲学研究者を招いての講演会を開催した。

我々が構築しようとしている看護実践の事例研究は、実践知の形式知化の一方法である。優れた看護実践事例に関し、他の看護師が模倣したり参考にしたりできるような知を、なるべく平易な形で表現すること、さらに看護学の学問的体系化のために蓄積可能な形にすることを志向している。看護実践は患者と看護師間の文脈性、省察的展開、統合性、一回性を特徴とする相互作用のプロセスとして実施される。その実践が効果的に患者を支援するありようを理解するためには、その看護師が状況をどのように捉え、何を為したかということについて、その看護師が経験した認識過程をなぞる形で把握することが必須と思われる。このため現象学的な看護実践者の経験把握がこの事例研究の基盤となった。看護師自身の実践経験を、看護師自身と他の実践者および研究者が現象学的な間主観性のもとで共に理解し、その理解をなるべく平易に他者が理解できるようにするために、グラウンデッド・セオリー法の手法を用いた概念化を援用する方法モデルを開発した。グラウンデッド・セオリーでは概念化は多様な方向性が可能であるが、ここでは、その方向性の基盤として現象学を置くと、看護実践が当該患者への支援として効果を持った意味に関して概念化できるように考えられた。

このような事例研究を汎用可能にするために、なるべく平易な形でプロトコル化を試みた。このためには、看護実践者を

対象とした事例研究方法ワークショップの試行を繰り返した。その結果、模擬事例を用いて、実践事例の意識化、言語化、概念化のプロセスをグループワークを通じてたどる全4回シリーズのワークショップが考案され、そのうち3回目までを実施した。実践を意識化・言語化するための実践経過を順を追って記載するワークシートと、概念化を促進するための表のフォーマットを開発した。これらはこの研究プロジェクトのホームページ上で公開した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

安塚則子、森元陽子、和智理恵、野口麻衣子、山本則子 訪問看護師が実践する家族介護者への代理意思決定支援：胃瘻造設の決定を支援した訪問看護の事例 家族看護学研究 査読有 .20 巻2号、2015、13-20.

山本則子 現象学的研究を目指す人に具体的な手掛かりを提供『現象学的看護研究』を読んで．看護研究．査読無．48 巻2号、2015、172-177．

山本則子 看護実践の知と質的研究．質的心理学フォーラム 査読有 .7 巻、2015、74-82.

西村ユミ、山本則子 ．[対談]現象学とグラウンデッド・セオリー．看護研究．査読無．48 巻6号、2015、525-535

岩戸さゆき、池田真理、吉岡大晶、吉田滋子、山本則子 ．医療的ケアが必要になった重症心身障害児の在宅復帰を可能にした看護 一母の本当の願いを引き出し実現した事例から一． 家族看護学研究．査読有．印刷中．2017

大竹泰子、野口麻衣子、野原良江、山本則子 ．最期の療養場所に関する意向の相違を抱えた家族に対する訪問看護師による意思決定支援． 家族看護学研究．査読有．印刷中．2017

〔学会発表〕(計14件)

Igarashi M, Yamamoto-Mitani N, Suzuki M, Igarashi A. What makes nurses' care for delirious patients effective?: A qualitative analysis. International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania. 2015.10.19. Chiang Mai.

Yoshida S, Yamamoto-Mitani N, Ikeda M, Murayama R, Kamibeppu K, Saito N, Yamahana R, Tsujimura M, Takai Y, Takemura M, and Noguchi-Watanabe, M. Developing a research protocol for case study: A collaboration between clinical nurses and researchers to create nursing

practice knowledge out of clinical practice. East Asian Forum of Nursing Scholars. 2016.3.14. Chiba.

福田明子、石井朝巳、野口麻衣子、山本則子 .在宅ターミナル利用者に関わる他職種の力を引き出す .日本地域間後学会第 18 回学術集会 . 2015.8.1. 横浜

大竹泰子、野口麻衣子、山本則子 . 最期の療養の場においての意思決定支援について : 本人、家族の移行の調整を通して思いを支える .日本地域間後学会第 18 回学術集会 . 2015.8.1. 横浜

荒木知美、池田真理、山本則子 . ICU におけるたちが意識 VAD 装着患者の終末期の一例 : 家族とともに終末期に向き合えた事例を通して . 日本集中治療医学会第 43 回学術集会 . 2016.2.14. 神戸

山本則子、池田真理、高井ゆかり、村山陵子、辻村真由子、山花令子、斎藤凡、野口麻衣子、上別府圭子 . 「日本の現場発看護学」の高知港を目指した事例研究方法の開発 . 日本看護科学学会第 35 回学術集会 . 2-15.12.5. 広島

吉岡大晶、岩戸さゆき、山本則子、池田真理、上別府圭子、高井ゆかり、野口麻衣子、辻村真由子 . 現場発の事例研究を学会発表から論文作成へ . 日本家族看護学会第 22 回学術集会 . 2015.9.5 小田原

山本則子、武村雪絵、池田真理、野口麻衣子、山花令子、斎藤凡 . 事例研究から看護管理学を創ろう : 福島の実験を知に . 日本看護管理学会第 19 回学術集会 . 2015.8.28. 郡山

山本則子 . 現象を読み取る質的研究方法の学問的基盤 : グラウンデッド・セオリアプローチの学問的基盤と現象の読み取り方 . 日本看護科学学会 35 回学術集会 . 2015.12.5. 広島

Jojima H, Yamamoto-Mitani N, Noguchi-Watanabe M. Nursing practice of the end-of-life care for a client with dementia in a residential facility in Japan: A case study. East Asian Forum of Nursing Scholars. 2017.3.9. Hong Kong

若尾邦江、長岡紗規子、藤森知紗、村山陵子、山本則子 . 看護師がチームとして認め合い結束できた一事例 . 日本看護管理学会第 20 回学術集会 . 2016.8.9. 横浜

山本則子 . 事例研究セミナー . 日本在宅看護学会第 6 回学術集会 . 2016.11.20. 東京

山本則子 . 「日本の現場発看護学」の開発を目指す実践者と研究者の協働モデル . 日本家族看護学会第 23 回が食う術集会 . 2016.8.28. 山形

山本則子 . よい論文とは何か、また、それを支える研究活動を探究する . 日本看護科学学会第 36 回学術集会 . 2016.12.11. 東京

〔図書〕(計 2 件)

山本則子、パトリシア・ベナー、筒井真優美 (編) . 看護理論家の業績と理論評価 . 2015 . 医学書院

山本則子 . 事例研究と事例検討 . 原礼子 (編) . プリンシプル在宅看護学 . 2016 . 医歯薬出版

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 件)

名称 :  
発明者 :  
権利者 :  
種類 :  
番号 :  
出願年月日 :  
国内外の別 :

○取得状況 (計 件)

名称 :  
発明者 :  
権利者 :  
種類 :  
番号 :  
取得年月日 :  
国内外の別 :

〔その他〕

ホームページ等

<http://tokyocasestudy.tumblr.com/>

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

山本 則子 ( YAMAMOTO-MITANI, Noriko )

東京大学・大学院医学系研究科・教授

研究者番号 : 9 0 2 8 0 9 2 4

(2) 研究分担者

辻村 真由子 ( TSUJIMURA, Mayuko )

千葉大学・大学院看護学研究科・准教授

研究者番号 : 3 0 5 1 4 2 5 2

(3) 連携研究者

野口 麻衣子 ( NOGUCHI-WATANABE, Maiko )

東京大学・大学院医学系研究科・助教

研究者番号 : 6 0 7 3 4 5 3 0

山花 令子 ( YAMAHANA, Reiko )

東京大学・大学院医学系研究科・助教

研究者番号 : 4 0 6 4 2 0 1 2

池田 真理 ( IKEDA, Mari )

東京女子医科大学・看護学部・教授

研究者番号 : 7 0 6 1 0 2 1 0

村山 陵子 (MURAYAMA, Ryoko)  
東京大学・大学院医学系研究科・准教授  
研究者番号：10279854

齋藤 凡 (SAITO, Nami)  
東京大学・医学部附属病院・看護師  
研究者番号：80710748

柄澤 清美 (KARASAWA, Kiyomi)  
新潟青陵大学・看護学部・准教授  
研究者番号：90339945

高井 ゆかり (TAKAI, Yukari)  
群馬県立県民健康科学大学・看護学部・教授  
研究者番号：00404921

武村 雪絵 (TAKEMURA, Yukie)  
東京大学・大学院医学系研究科・准教授  
研究者番号：70361467

上別府 圭子 (KAMIBEPPU, Kiyoko)  
東京大学・大学院医学系研究科・教授  
研究者番号：70337856

(4)研究協力者

吉田 滋子 (YOSHIDA, Shigeko)